

主があなたを祝福し、あなたを守られるように（民数記6章24節）。

私は、この聖句を、まずは自分で理解できる言葉に直すところから始めました。

前半の「主があなたを祝福し」は、「神様が私たちを愛し、成功や平和をもたらし、成長させてくれること」かな？と考えました。そして「祝福」は、時には試練や困難の形で私たちの前に訪れることもあるかもしれません。でも、それは私たちに必要な成長をもたらすものだと思います。後半の「あなたを守られるように」は、神様が私たちを悪や不幸、災害などから守ってくれるという物理的な安全と、心の安全、つまり、安心して生きることができるように見守ってくれる、と考えました。

その上で、もう一度この聖句を、私なりの言葉に直してみると、「神様は私たちを愛し、見守り、成功や平和などを与えてくれる。安心だなあ。」となります。ハッピーじゃないですか。

ハッピーですが、この聖句には単なる「安心」以上の意図があると私は感じます。

「守られているからこそ、その安心の中で自分を高め、輝かせ、誠実に生きるべきだ」という、神様の姿勢に対し、応えようとする、応答の姿勢を求められているように感じます。安心感があるからこそ、新しい挑戦に向かう力が湧いてくるのだと思います。

私はかつて、親や部の先輩、上司の先生からこう言われたことがあります。「私がついている、だから、安心して自分の正しいと思うこと、目的達成のためになること、生徒のためになると思うことを貫きなさい。」もうわかりますね。その言葉は、私に安心感を与え、邪念を捨てて脇見しないで、物事に全力で取り組む力というものを与えてくれました。そして、毎日「今日もやりきったぞ、だから、明日という新しい一日も頑張ろう」というように、納得感のある日々の積み重ねこそが、自分の明日のエネルギーになるのだということも教えてくれました。

とはいってもエネルギーは時に不足するものです。共通テストを今週末に控えた3年生をはじめ、今日も多くの人々が挑戦の途中にいます。私も挑戦の日々です。中には不安に押しつぶされそうになっている人もいることでしょう。私にも不安なことは山ほどあります。そんな時は、かつてのように私の先輩方から声をかけてほしいし、今度は私が不安の渦中にいる人に声をかけたいと思うし、また、皆さんにもお互いに声をかけあってほしいと思っています。

さあ、これから勝負に向かう皆さん、私たち教員は皆さんの手を絶対に放しません。最後まで共に走りましょう。